

PAT-NO: JP02002049799A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 2002049799 A

TITLE: DEVICE AND METHOD FOR RECEIVING MERCHANDISE
INFORMATION,
AND DEVICE AND METHOD FOR TRANSMITTING
MERCHANDISE
INFORMATION

PUBN-DATE: February 15, 2002

INVENTOR-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
TAKAHAMA, YURI	N/A

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
MATSUSHITA ELECTRIC IND CO LTD	N/A

APPL-NO: JP2000234659

APPL-DATE: August 2, 2000

INT-CL (IPC): G06F017/60, G06F017/30

ABSTRACT:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a merchandise information receiver and a merchandise information receiving method, which automatically generate merchandise order information, even if an operator will not generate the merchandise order information manually or the like and automatically transmit the merchandise order information to the address of a merchandise information provider.

SOLUTION: This merchandise information receiver has a receiving part for receiving a 1st merchandise identifier or merchandise information, including

BEST AVAILABLE COPY

the 1st merchandise identifier and a 1st keyword information; a storing part for storing a 2nd merchandise identifier or 2nd keyword information and a receiver identifier; a deciding part for deciding whether the 1st merchandise identifier is the same as the 2nd merchandise identifier, or deciding whether the 1st keyword information is the same as or similar to the 2nd keyword information; an order information generating part for automatically generating the order information of merchandise related to the 1st merchandise identifier, when the 1st merchandise identifier is the same as the 2nd merchandise identifier or when the 1st keyword information, is the same as or is similar to the 2nd keyword information, and an outputting part for automatically outputting the order information through a communication line.

COPYRIGHT: (C)2002,JPO

【特許請求の範囲】

【請求項1】 第1の商品識別子又は第1の商品識別子及び第1のキーワード情報を含む商品情報を受信する受信部と、

第2の商品識別子若しくは第2のキーワード情報並びに受信者識別子を記憶する記憶部と、

前記第1の商品識別子と前記第2の商品識別子が同一か否かを判断し、又は前記第1のキーワード情報と前記第2のキーワード情報が同一若しくは類似か否かを判断する判断部と、

前記第1の商品識別子と前記第2の商品識別子が同一であり又は前記第1のキーワード情報と前記第2のキーワード情報が同一若しくは類似であれば、前記第1の商品識別子に係る商品の注文情報を自動的に生成する注文情報生成部と、

前記注文情報を自動的に出力する出力部と、
を有することを特徴とする商品情報受信装置。

【請求項2】 前記記憶部に更に記憶されている前記商品の注文履歴又は商品の購入履歴に含まれる前記第1の商品識別子と同一の商品識別子である前記第2の商品識別子又は前記第1のキーワード情報と同一若しくは類似のキーワード情報である前記第2のキーワード情報のいずれかに係る商品の前回の注文日又は購入日から現在までの日数を算出する演算部を更に有し、

前記注文情報生成部が、前記第1の商品識別子と前記第2の商品識別子とが同一であり又は前記第1のキーワード情報と前記第2のキーワード情報が同一若しくは類似であり且つ前回の注文日又は購入日から現在までの前記日数が一定の日数以上であれば、前記第1の商品識別子及び前記受信者識別子に基づいて注文情報を自動的に生成する、
ことを特徴とする請求項1に記載の商品情報受信装置。

【請求項3】 前記一定の日数を前記第2の商品識別子又は第2のキーワード情報ごとに異なる日数に設定することを特徴とする請求項1又は請求項2に記載の商品情報受信装置。

【請求項4】 前記注文情報生成部は、前記記憶部に更に記憶されている前記商品の注文履歴又は商品の購入履歴に含まれる前記第1の商品識別子と同一の商品識別子である前記第2の商品識別子又は前記第1のキーワード情報と同一若しくは類似のキーワード情報である前記第2のキーワード情報のいずれかに係る商品の前回の注文の注文情報に含まれる注文数量と同一の注文数量の商品注文情報を自動生成することを特徴とする請求項1から請求項3のいずれかの請求項に記載の商品情報受信装置。

【請求項5】 前記注文情報生成部が自動的に前記注文情報を生成するか否かの指令を入力する指令入力部を更に有し、前記注文情報生成部が前記指令に基づいて自動的に前記注文情報を生成することを特徴とする請求項1

から請求項4のいずれかの請求項に記載の商品情報受信装置。

【請求項6】 前記記憶部が、前記第2の商品識別子又は前記第2のキーワード情報ごとに定められた一定の日数及び商品の注文先の情報を含む前記商品の注文履歴又は商品の購入履歴を記憶しており、

前記商品の注文履歴又は商品の購入履歴に基づいて、前記第2の商品識別子又は前記第2のキーワード情報に係る商品の前回の注文日又は前回の購入日から現在までの日数が前記一定の日数以上であれば、商品情報の送付の要求情報を生成する要求情報生成部を更に有し、

前記出力部が前記要求情報を前回の注文先に送付する、
ことを特徴とする請求項1から請求項5のいずれかの請求項に記載の商品情報受信装置。

【請求項7】 商品情報を送信する通信部と、
注文者の注文履歴若しくは商品購入履歴、並びに商品毎に定められた一定の日数を格納する格納部と、

前記注文者の注文履歴若しくは商品購入履歴に基づいて、前記注文者が商品を前回注文した日又は購入した日から現在までの日数が前記注文者が注文した商品に係る前記一定の日数以上であれば、前記注文者が注文した商品又はこれに類似する商品に係る商品情報を前記注文者に送信することを前記通信部に指令する管理部と、
を有することを特徴とする商品情報送出装置。

【請求項8】 前記通信部が送信する商品情報に、前記注文者が前記商品を前回注文した数量を添付することを特徴とする請求項7に記載の商品情報送出装置。

【請求項9】 第1の商品識別子又は第1の商品識別子及び第1のキーワード情報を含む商品情報を受信する受信ステップと、

第2の商品識別子若しくは第2のキーワード情報並びに受信者識別子を記憶する記憶ステップと、

前記第1の商品識別子と前記第2の商品識別子が同一か否かを判断し、又は前記第1のキーワード情報と前記第2のキーワード情報が同一若しくは類似か否かを判断する判断ステップと、

前記第1の商品識別子と前記第2の商品識別子が同一であり又は前記第1のキーワード情報と前記第2のキーワード情報が同一若しくは類似であれば、前記第1の商品識別子に係る商品の注文情報を自動的に生成する注文情報生成ステップと、

前記注文情報を自動的に出力する出力ステップと、
を有することを特徴とする商品情報受信方法。

【請求項10】 記憶されている前記商品の注文履歴又は商品の購入履歴に含まれる前記第1の商品識別子と同一の商品識別子である前記第2の商品識別子又は前記第1のキーワード情報と同一若しくは類似のキーワード情報である前記第2のキーワード情報のいずれかに係る商品の前回の注文日又は購入日から現在までの日数を算出する演算ステップを更に有し、

前記注文情報生成ステップにおいて、前記第1の商品識別子と前記第2の商品識別子とが同一であり又は前記第1のキーワード情報と前記第2のキーワード情報とが同一若しくは類似であり且つ前回の注文日又は購入日から現在までの前記日数が一定の日数以上であれば、前記第1の商品識別子及び前記受信者識別子に基づいて注文情報を自動的に生成する、

ことを特徴とする請求項9に記載の商品情報受信方法。

【請求項11】 前記一定の日数を前記第2の商品識別子又は第2のキーワード情報ごとに異なる日数に設定することを特徴とする請求項9又は請求項10に記載の商品情報受信方法。

【請求項12】 前記注文情報生成ステップにおいて、記憶されている前記商品の注文履歴又は商品の購入履歴に含まれる前記第1の商品識別子と同一の商品識別子である前記第2の商品識別子又は前記第1のキーワード情報と同一若しくは類似のキーワード情報である前記第2のキーワード情報のいずれかに係る商品の前回の注文の注文情報に含まれる注文数量と同一の注文数量の商品注文情報を自動生成することを特徴とする請求項9から請求項11のいずれかの請求項に記載の商品情報受信方法。

【請求項13】 前記注文情報生成ステップにおいて自動的に前記注文情報を生成するか否かの指令を入力する指令入力ステップを更に有し、前記注文情報生成ステップにおいて前記指令に基づいて自動的に前記注文情報を生成することを特徴とする請求項9から請求項12のいずれかの請求項に記載の商品情報受信方法。

【請求項14】 前記記憶ステップにおいて、前記第2の商品識別子又は前記第2のキーワード情報ごとに定められた一定の日数及び商品の注文先の情報を含む前記商品の注文履歴又は商品の購入履歴を記憶しており、前記商品の注文履歴又は商品の購入履歴に基づいて、前記第2の商品識別子又は前記第2のキーワード情報に係る商品の前回の注文日又は前回の購入日から現在までの日数が前記一定の日数以上であれば、商品情報の送付の要求情報を前回の注文先に送付する要求情報送付ステップを更に有する、

ことを特徴とする請求項9から請求項13のいずれかの請求項に記載の商品情報受信方法。

【請求項15】 商品情報を送信する通信ステップと、注文者の注文履歴若しくは商品購入履歴、並びに商品毎に定められた一定の日数を格納する格納ステップと、前記注文者の注文履歴若しくは商品購入履歴に基づいて、前記注文者が商品を前回注文した日から現在までの日数が前記注文者が注文した商品に係る前記一定の日数以上であれば、前記注文者が注文した商品又はこれに類似する商品に係る商品情報を前記注文者に送信することを指令する管理ステップと、

を有することを特徴とする商品情報送出方法。

【請求項16】 前記通信ステップにおいて、送信する商品情報に前記注文者が前記商品を前回注文した数量を添付することを特徴とする請求項15に記載の商品情報送出方法。

【請求項17】 第1の商品識別子又は第1の商品識別子及び第1のキーワード情報を含む商品情報を受信する受信ステップと、

第2の商品識別子若しくは第2のキーワード情報並びに受信者識別子を記憶する記憶ステップと、

10 前記第1の商品識別子と前記第2の商品識別子が同一か否かを判断し、又は前記第1のキーワード情報と前記第2のキーワード情報が同一若しくは類似か否かを判断する判断ステップと、

前記第1の商品識別子と前記第2の商品識別子が同一であり又は前記第1のキーワード情報と前記第2のキーワード情報が同一若しくは類似であれば、前記第1の商品識別子に係る商品の注文情報を自動的に生成する注文情報生成ステップと、

前記注文情報を自動的に出力する出力ステップと、

20 を有することを特徴とする商品情報受信プログラムを記録した記録媒体。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、商品情報受信装置、商品情報送出装置、商品情報受信方法及び商品情報送出方法に関する。

【0002】

【従来の技術】近年、通信手段又は放送手段を介した商品の販売ビジネスが盛んになっている。通信手段を介した商品の販売ビジネスとは、例えばインターネットでの商品情報の提供及び商品の注文を含む商品の販売方法である。需要者（受信者）は、例えば家にあるパーソナルコンピュータでブラウザ検索を行って販売者のURL（Uniform Resource Locator）を見つける。次に、需要家（受信者）はインターネットを通じて当該販売者のURLにアクセスし、HTMLで記述された商品情報及び注文書を取得する（受信する）。次に、受信者は、取得した商品情報を見て注文する商品を決し、注文書に注文する商品の名前、商品識別子、注文数量、注文者（需要家、受信者）の氏名、注文者の受信者識別子等を記入した後、当該注文書を販売者に送付する。販売者は、当該注文書を受信し、注文された商品を受信者に送付する（例えば郵送により送付する。）。注文者の例えば銀行口座から商品の代金を引き落とすことにより、販売者は代金を取得する。

【0003】放送手段を介した商品の販売ビジネスとは、例えばテレビショッピング番組を通じた商品情報の提供並びにインターネット若しくは電話による商品の注文を含む商品の販売方法である。需要者（受信者）は、

50 テレビショッピング番組を見て商品情報を取得し、注文

する商品を決定し、テレビショッピング番組の案内に従って注文する商品の名前、商品識別子、注文数量、注文者（需要家、受信者）の氏名、住所等を記載した注文書を作成した後、当該注文書を販売者に送付する。販売者は、当該注文書を受信し、注文された商品を受信者に送付する（例えば郵送により送付する。）。注文者の例えば銀行口座から商品の代金を引き落とすことにより、販売者は代金を取得する。

【0004】通信手段又は放送手段を介した商品の販売ビジネスにおいては、ユーザは容易に商品の仕様（例えば色、形状、機能又は性能等）及び価格等の情報である商品情報を手に入れることが出来、多くの場合は容易に当該商品を注文することが出来る。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】従来の通信手段又は放送手段を介した商品情報の提供及び商品の注文を含む商品の販売方法により、受信者は容易に商品情報を取得することが出来る。しかし、従来のテレビショッピング番組は、不特定多数の受信者に無差別に商品情報を提供するだけであり、商品情報を提供した受信者の中の当該商品を購入する受信者の比率（ヒット率）が高くなかった。そのため、商品情報の提供に基づいて正確な販売予測も困難であった。本発明は、商品情報を提供した受信者の中の当該商品を購入する受信者の比率（ヒット率）が高く、商品情報の提供に基づいて高い確率の販売予測をすることが出来る商品情報送出装置及び商品情報送出方法を提供することを目的とする。

【0006】又、インターネットでの商品情報の提供及び商品の注文を含む従来のpull型の商品の販売方法においては、商品情報を取得しようとする者が、例えば商品情報提供者のURLにアクセスすることにより自ら商品情報を取得することにより商品情報を取得しなければならなかった。又、インターネットでの商品情報の提供及び商品の注文を含む従来のpush型の商品の販売方法においては、商品情報を取得しようとする者は、膨大な量の商品情報から手作業で希望する商品情報を抽出しなければならず、希望する商品情報の取得に多大な手間と時間とを要した。本発明は、受信者が商品情報を取得する指令を入力しなくても、又手作業で希望する商品情報を抽出しなくても、自動的に希望する商品情報を取得できる商品情報受信装置及び商品情報受信方法を提供することを目的とする。

【0007】又、インターネットでの商品情報の提供及び商品の注文を含む従来の商品の販売方法においては、商品を注文しようとする者は、自ら商品の注文情報を生成し、自ら商品情報提供者のアドレスに送信しなければならなかった。本発明は、操作者が手作業で商品の注文情報を生成等しなくても、自動的に商品の注文情報を生成し、自動的に当該商品の注文情報を商品情報提供者のアドレスに送信する商品情報受信装置及び商品情報受信

方法を提供することを目的とする。

【0008】

【課題を解決するための手段】本発明の請求項1の発明は、第1の商品識別子又は第1の商品識別子及び第1のキーワード情報を含む商品情報を受信する受信部と、第2の商品識別子若しくは第2のキーワード情報並びに受信者識別子を記憶する記憶部と、前記第1の商品識別子と前記第2の商品識別子が同一か否かを判断し、又は前記第1のキーワード情報と前記第2のキーワード情報が同一若しくは類似か否かを判断する判断部と、前記第1の商品識別子と前記第2の商品識別子が同一であり又は前記第1のキーワード情報と前記第2のキーワード情報が同一若しくは類似であれば、前記第1の商品識別子に係る商品の注文情報を自動的に生成する注文情報生成部と、前記注文情報を自動的に出力する出力部と、を有することを特徴とする商品情報受信装置である。

【0009】本発明は、送付される商品情報の中から自動的に受信者（商品情報受信装置を操作する人）が希望する商品情報を選択し、自動的に注文情報を生成し、生成した注文情報を送付する商品情報受信装置を実現出来るという作用を有する。受信者は、ブラウザ検索等により手作業で希望する商品情報を取得することなく、又手作業で注文書を作成して送付することなく、希望する商品を手入手することが出来る。

【0010】「受信部」の受信方法は任意である。例えば、商品情報の提供手段が衛星放送又は地上波放送等の放送手段であれば、衛星放送の受信部（衛星放送アンテナ及びチューナ部を含む。）又は地上波受信部（地上波アンテナ及びチューナ部を含む。）等であり、インターネットによる商品情報の提供であれば、例えばパーソナルコンピュータのMODEM（受信部と出力部とを含む。）の受信部である。「出力部」とは、例えばパーソナルコンピュータのMODEM（受信部と出力部とを含む。）の出力部、又はプリンタ等である。好ましくは、出力部は、通信回線に接続されたMODEM等の装置である（人手が全く不要な自動注文が可能だからである。）。従って、受信部と出力部はまったく別個の物でも良く、分離できない一体の物であっても良い。

【0011】「商品識別子」とは、商品毎に付与された当該商品に固有の情報である。例えば、商品識別子は10桁の数字又は文字の組合せである。「商品情報」とは、商品に関する任意の情報を言う。例えば、HTMLで記述された商品の名称、価格、仕様、未完成の商品注文書（例えば注文者の氏名、購入数量等が未記入である注文書である。）等を含む情報である。「注文情報」とは、商品を注文するための情報であり、典型的には商品識別子、注文数量、注文者の氏名等を含む。「受信者識別子」とは、受信者毎又は商品情報受信装置毎に付与された当該受信者又は商品情報受信装置に固有の情報である。例えば、受信者識別子は10桁の数字又は文字の組

合せである。

【0012】「キーワード情報」とは、当該情報に基づいて商品に関連する商品と無関係な商品に分類可能な任意の情報を意味する。「キーワード情報」は、例えば商品分類コード、商品分類名(カテゴリ名)、商品名、製造メーカー名、製造メーカー識別子(製造メーカー毎に付与された固有の情報)、商品の特徴を表す言葉(例えば「映像」、「清潔」等)、当該商品の商品情報を取得可能なサイトのURL又はサイト名、注文情報(注文書)の送付先であるサイトのURL又はサイト名等を含む。

【0013】「前記第1のキーワード情報と前記第2のキーワード情報が類似」とは、第1のキーワード情報と第2のキーワード情報が近似していることを意味する。キーワード情報が類似か否かの判断基準は任意である。実施例においては、類似語辞書に基づいて類似か否かを判断する。例えば、商品情報受信装置が記憶しているキーワード情報が「台所用品」であって商品情報に含まれるキーワード情報が「食器洗い洗剤」である場合に、商品情報受信装置が有する類似語辞書において見出し語である「台所用品」に類似するキーワード情報の中に「食器洗い洗剤」が含まれていれば両者を類似と判断する。

【0014】本発明の請求項2の発明は、前記記憶部に更に記憶されている前記商品の注文履歴又は商品の購入履歴に含まれる前記第1の商品識別子と同一の商品識別子である前記第2の商品識別子又は前記第1のキーワード情報と同一若しくは類似のキーワード情報である前記第2のキーワード情報のいずれかに係る商品の前回の注文日又は購入日から現在までの日数を算出する演算部を更に有し、前記注文情報生成部が、前記第1の商品識別子と前記第2の商品識別子とが同一であり又は前記第1のキーワード情報と前記第2のキーワード情報とが同一若しくは類似であり且つ前回の注文日又は購入日から現在までの前記日数が一定の日数以上であれば、前記第1の商品識別子及び前記受信者識別子に基づいて注文情報を自動的に生成する、ことを特徴とする請求項1に記載の商品情報受信装置である。

【0015】従来の商品情報受信装置においては、希望する商品の注文が完了すると、又は希望する商品を購入すると、当該商品(注文が完了した商品又は購入した商品)は購入を希望する商品のリストから外された。それ故に、同一物を再度注文しようとするれば、受信者は新たに注文書を作成及び送付する必要があった。しかし、例えば日常生活においては幾つかの品目の消耗品が定常的に使用及び消耗される。そのため、これらの商品は実質的に定期的に購入される。そのような日用品とは、例えばティッシュ、トイレットペーパー、シャンプー、石鹸、洗剤、醤油等である。例えば趣味性が強く一般的には不定期に購入する衣類等の商品を購入する行為は多くの人にとって楽しみであるが、ティッシュ等の消耗品は趣味性に乏しく、多くの人にとってはティッシュ等の定期的

な購入は面倒な仕事でしかない。

【0016】本発明の商品情報受信装置においては、定期的自動購入をする商品については、希望する商品の注文が完了しても又は希望する商品を購入しても当該商品(注文が完了した商品又は購入した商品)は購入を希望する商品のリストから外されない。定期的自動購入をする商品については定期的自動購入インターバル(請求項の記載における「一定の日数」である。)が決められており、当該定期的自動購入インターバルが経過した後、次に同一又は類似の商品の商品情報を受信すると自動的に当該商品の次回の注文が生成され、出力される。なお、定期的自動購入をする商品が注文又は購入されると、その後当該定期的自動購入インターバルが経過するまでは当該商品の次回の注文がされない。

【0017】一度定期的自動購入をする商品を登録すると、その後当該商品の注文指令を新たに入力することなく、商品情報を入手すると当該商品が自動的に且つ定期的に注文され、購入され続ける。これにより、受信者はつまらない日常の消耗品を定期的に購入する労力から開放される。又、商品の販売者は、定期的に且つ確実に顧客からの注文を得ることが出来る。本発明は、受信者の手間を煩わせることなく自動的に且つ定期的に商品を購入する商品情報受信装置を実現出来るという作用を有する。

【0018】「商品の注文履歴」とは過去における同一受信者が商品を購入した履歴を意味し、「商品の購入履歴」とは過去における同一受信者が商品を購入した履歴を意味する。

【0019】しかし、最適の定期的自動購入インターバルは、定期的自動購入をする商品毎によって異なる。請求項3の発明は、各商品毎に最適の定期的自動購入インターバルを設定可能な商品情報受信装置を実現出来るという作用を有する。

【0020】又、同一又は類似の商品を定期的に自動購入する上で、推定により決定した最適の数の商品を購入することが好ましい。一般に、定期的に商品を購入する場合は、一定のインターバルで一定の数量を購入し続けることが多い。そこで、本発明は、前回の注文数量と同一の数の商品を購入することにより最適の数の商品を購入する商品情報受信装置を実現出来るという作用を有する。

【0021】本発明の請求項6の発明は、前記記憶部が、前記第2の商品識別子又は前記第2のキーワード情報ごとに定められた一定の日数及び商品の注文先の情報を含む前記商品の注文履歴又は商品の購入履歴を記憶しており、前記商品の注文履歴又は商品の購入履歴に基づいて、前記第2の商品識別子又は前記第2のキーワード情報に係る商品の前回の注文日又は前回の購入日から現在までの日数が前記一定の日数以上であれば、商品情報の送付の要求情報を生成する要求情報生成部を更に有し、前記出力部が前記要求情報を前回の注文先に送付す

る、ことを特徴とする請求項1から請求項5のいずれかの請求項に記載の商品情報受信装置である。

【0022】一般に商品情報のpush型の提供方法においては、受信者は希望する商品情報を受信するまでいつまでも待ち続けなければならない。例えば定期的に消耗品を自動購入する場合に、いつまでも商品情報が来なければ次の商品の注文が出来ない故に、商品の入手が不安定になる。

【0023】本発明は、例えば定期的に商品を購入する場合、一定のインターバル以上の日数を経過すると、自動的に商品情報受信装置が商品情報の要求情報を生成し、前回の注文先に送付する。自動的に商品情報を要求し取得することにより、本発明は、より正確に一定のインターバル毎に商品を自動的に注文し且つ購入する商品情報受信装置を実現出来るという作用を有する。本発明は、商品情報のpush型の提供方法の中に部分的にpull型の提供方法を取り込むことにより、より正確に一定のインターバル毎に商品を自動的に注文し且つ購入する商品情報受信装置を実現する。

【0024】本発明の請求項7の発明は、商品情報を送信する通信部と、注文者の注文履歴若しくは商品購入履歴、並びに商品毎に定められた一定の日数を格納する格納部と、前記注文者の注文履歴若しくは商品購入履歴に基づいて、前記注文者が商品を前回注文した日又は購入した日から現在までの日数が前記注文者が注文した商品に係る前記一定の日数以上であれば、前記注文者が注文した商品又はこれに類似する商品に係る商品情報を前記注文者に送信することを前記通信部に指令する管理部と、を有することを特徴とする商品情報送出装置である。

【0025】本発明の商品情報送出装置は、ある注文者から商品の注文を受けると、その注文した日又は購入した日から一定期間を経過後、自動的に同一又は類似の商品の商品情報を当該注文者に送付する。特にティッシュ等の消耗品は、日常生活において一定のペースで消耗する故、一定の期間毎に同一又は類似の商品を購入する可能性が高い。又、一定のインターバルでこれらの日常消耗品の商品情報を受信者に提供することは、受信者にとっても極めて便利である。又、これらの商品の多くは趣味性が乏しい故に、必要性が生じたそのタイミングで商品情報の提供を受ければ、受信者が他の同種の商品との比較検討をすることなく当該商品を購入する確率も高い。受信者が定期的な商品情報の提供自体を便利であると思えば、更に当該商品を購入する可能性も高くなる。

【0026】本発明は、商品情報の提供により多くの注文を獲得する可能性が高い商品情報送出装置を実現出来るという作用を有する。「一定の日数」は販売者が経験及び統計等に基づいて決定した日数であっても良く、又は注文者毎に前々回の同一又は類似商品の注文日又は購入日から前回の同一又は類似商品の注文日又は購入日ま

での間の期間に基づいて定めた日数であっても良い。

【0027】請求項8の発明は、商品情報に注文者の注文数量を添付することにより、注文者の次の注文書の生成を容易にする商品情報送出装置を実現出来るという作用を有する。

【0028】

【発明の実施の形態】以下本発明の実施をするための最良の形態を具体的に示した実施例について図面とともに記載する。

10 【実施例1】図1は、実施例の商品情報送出装置11及び商品情報受信装置21を図示する。

〔商品情報送出装置の構成の説明(図1)〕商品情報送出装置11は、管理部12、格納部13、及びMODEM14を含む。管理部12は、典型的にはコンピュータである。格納部13は、典型的にはハードディスク装置、光ディスク装置を組み合わせた記憶装置である。

【0029】格納部13は、商品管理データ131、キーワードリスト132、受信者履歴情報133、及び商品情報134を含む。商品管理データ131、キーワードリスト132、受信者履歴情報133、及び商品情報134は、いずれもデータベース(例えばマイクロソフト社のアクセス(登録商標)等により構築されたデータベース)であって、例えば任意の項目について任意の順番でソーティング等が可能である。商品管理データ131は、商品毎の入庫予定、注文残、在庫状況、代金決済状況、出荷予定等のデータである。

【0030】キーワードリスト132は、見出しに相当する各商品ごとに、関連のあるキーワードが記載されている。関連のあるキーワードとは、例えば当該商品が含まれる商品分類コード及び商品分類名(カテゴリ名)、当該商品の製造メーカー名及びその製造メーカー識別子(製造メーカー毎に付与された固有の情報)、当該商品の特徴を表す言葉(例えば「映像」、「清潔」等)等を含む。受信者履歴情報133は、受信者リスト(顧客リストを含む。)を兼ねている。受信者履歴情報133は、受信者毎の過去の商品注文履歴、現在の注文受付状況、商品出荷状況、代金決済状況等の詳細データである。

【0031】〔受信者履歴リストの説明(図5)〕図5は受信者履歴情報133から生成した受信者履歴リストを例示する(ソーティングの方法等によりリストの内容及び表示は変化する。)。a製紙会社の受信者履歴リストである図5の各列の記載事項を説明する。501は受信者識別子、502は受信者名、503は商品識別子、504は商品名、505は商品の注文受付日、506は商品発送日、507は代金決済の有無及び日時、508は受信者が当該商品に関する定期的情報の入力を希望しているか否かの表示、509は受信者が当該商品を定期的に自動購入することを希望しているか否かの表示、510は受信者が当該商品を定期的に自動購入する場合の購入のインターバル、511は商品の単価、512は購

入数量、513は購入金額（購入金額＝単価×購入数量）である。

【0032】受信者が一定の種類の商品情報の定期的な送付を希望する場合は508の表示がYESになり、商品情報を定期的に送付することを希望しない場合は508の表示がNOになる。同様に、受信者が一定の種類の商品を定期的に自動購入することを希望する場合は509の表示がYESになり、商品を定期的に自動購入することを希望しない場合は509の表示がNOになる。受信者が一定の種類の商品を定期的に自動購入することを希望する場合は、同一の商品の商品情報を定期的に送付されることを希望すると注文が便利である故に（商品情報を受け取って、その商品情報に基づいて商品を自動注文すれば、確実に当該商品を購入することが出来る。）、同一の商品の商品情報を定期的に送付されることを希望する場合が多い。又、例えば、通常の衣類等のカタログ販売のように、受信者が一定の種類の商品情報の定期的な送付を希望するが、それらの商品の自動購入を希望しない場合がある。

【0033】図5の1行目の表示を説明する。受信者識別子9485160173の受信者である山田一郎が、商品識別子5964382615の商品であるティッシュPを2000年7月13日の14時39分23秒に注文した。当該注文商品は、2000年7月15日9時3分15秒に山田一郎宛で発送されている。代金決済は済んでいない。受信者は、このティッシュPに関して定期的に商品情報を送付することを希望しており（定期的情報入力508が「YES」である。）、又このティッシュPを3月ごとに（定期的自動購入インターバル欄510）定期的に自動購入することを希望している（定期的自動購入欄509が「YES」である。）。この商品（ティッシュP）の単価は400円、山田一郎の購入数量は3個、購入金額は400円×3＝1200円である。

【0034】図5の2行目において、同一の受信者である山田一郎が、商品識別子8423594068の商品であるペーパータオルGを2000年7月23日の10時10分19秒に注文したが、当該注文商品はまだ発送されておらず、代金も決済されていない。

【0035】商品管理データ131と受信者履歴情報133とは、更にデータベースで連結されている。商品管理データ131と受信者履歴情報133とに代えて、両者を統合する1個のデータベースであっても良い。商品情報134は、商品毎の情報である。実施例においては、商品情報134は、各商品毎のHTMLで記述された情報の集合である。他の実施例においては、商品情報は、ビットマップ画像で構成されている。もっとも、この場合も未完成の注文情報はHTMLで記述されていることが好ましい。各商品の商品情報134は、それぞれの商品の未完成の注文情報（注文書）を有している。各

商品の商品情報134は、商品名、商品識別子（請求項の記載における「第1の商品識別子」）、商品の仕様（形状、色、特性、価格等）、キーワード等を含む。商品情報134に含まれるキーワード情報は、キーワードリスト132から検索された当該商品のキーワード、当該商品の商品名、及び商品情報送出装置11のURL等を含む。

【0036】[商品情報受信装置の構成の説明（図1）] 商品情報受信装置21は、指令入力部22、中央演算処理装置（CPU Central Processing Unit）23、記憶部24、画像生成部25、及びMODEM26を含む。指令入力部22、CPU23、記憶部24、画像生成部25、及びMODEM26はそれぞれバスライン27に接続されており、相互にデータを授受することが可能である。表示部28が商品情報受信装置21の画像生成部25の出力端子に接続されている。

【0037】又、MODEM14（商品情報送出装置11）とMODEM26（商品情報受信装置21）とは、それぞれ通信回線31に接続されており、相互にデータの受け渡しをすることが出来る。CPU23は、判断部231、演算部232、注文情報自動生成部233、及び要求情報生成部234を含む。判断部231、演算部232、注文情報自動生成部233、及び要求情報生成部234は、ソフトウェアプログラムにより実行される。

【0038】記憶部24は、ハードディスク装置241、受信者識別子カード入力部242を有する。記憶部は他の記憶素子（ROM、記録再生型光ディスク装置等）で構成されていてもよい。又、実施例の記憶素子は2個の記憶素子（ハードディスク装置241及び受信者識別子カード入力部242）で構成されているが、1個又は3個以上の記憶素子で構成されていても良い。ハードディスク装置241は、受信した商品情報と、商品情報受信装置で商品を購入した履歴を含む商品購入履歴情報と（図2にその内容を例示する。）、受信者が商品情報受信装置に入力した商品の自動購入等を起動するための商品識別子又はキーワードと（図4に例示する商品情報検索リストに含まれる。）、受信者が手動で入力して生成した又は自動的に生成した商品の注文書のリストである商品注文リストと（図3にその内容を例示する。）、類似語辞書とを含んでいる。これらの内容については、商品情報受信装置の動作の説明の中で詳述する。

【0039】MODEM26は、出力部261、受信部262を有する。画像生成部25は、CPU23から伝送された映像データをビットマップ画像信号に変換する。表示部28は、例えばCRTディスプレイ、液晶表示装置、プラズマディスプレイ等の画像表示装置であって、画像生成部25が生成したビットマップ画像信号を

表示する。表示部28はスピーカを含むことも出来る。

【0040】〔商品情報送出装置の動作の説明〕商品情報送出装置11の説明をする。商品情報送出装置11の管理部12は、格納部13に格納している商品情報134から受信者に送出する商品情報を選択する。次に、管理部12は、受信者履歴情報133（受信者リストを兼ねる。）に基づいて商品情報の送付先の受信者を選択する。管理部12は、HTMLで記述された各受信者宛の商品情報を生成し、MODEM14に送る。MODEM14は、通信回線31を通じて各商品情報受信装置21に商品情報を伝送する。

【0041】〔商品情報の説明〕上述の様に、商品情報は、商品名、商品識別子（請求項の記載における「第1の商品識別子」）、商品の仕様（形状、色、特性、価格等）、キーワード等を含む。キーワードは、キーワードリスト132から検索された当該商品のキーワード、及び当該商品の商品名等を含む。HTMLで記載された商品情報の概略的なサンプルを記載する。下記のサンプルは、商品識別子が5964382615で、商品名がティッシュペーパーの商品情報である。

【0042】〈HTML〉

<HEAD>

<TITLE>商品のご案内</TITLE>

</HEAD>

<BODY>

<H1>商品のご案内</H1><HR>

<TABLE>

<TR>

<TD>商品識別子</TD>

<TD>5964382615</TD>

</TR>

<TR>

<TD>商品名</TD>

<TD>ティッシュペーパー</TD>

</TR>

以下、同様にテーブル表記により、単価400円、製造メーカ識別子6283945129、製造メーカ名a製紙会社、カテゴリ識別子（商品分類コード）1248965285、商品分類名ティッシュ、その他のキーワード（2枚重ね、ソフト等）、販売者識別子6283945129、販売者名a製紙会社等が記載されている（本実施例においては、製造メーカがインターネットによる直接販売を実施している故に、製造メーカ識別子及び製造メーカと販売者識別子及び販売者名が同一である。）。)

</TABLE>

</BODY>

</HTML>

【0043】又、当該商品情報には、未完成の注文書が添付されている。未完成の注文書には、商品識別子、

商品名、注文書の送付先のアドレス等が含まれているが、注文者の氏名、注文数量等が記載されていない。

【0044】〔商品情報送出装置の動作の説明〕次に商品情報受信装置21の説明をする。商品情報受信装置21のMODEM26の受信部262が上記の商品情報（未完成の注文情報を含む。）を受信する。MODEM26が受信した商品情報（未完成の注文情報を含む。）をCPU23に送付する。CPU23は商品情報（未完成の注文情報を含む。）を記憶部24のハードディスク装置241に格納する。

【0045】他と実施例においては、ハードディスク装置241は未完成の定型の商品注文情報を記憶しており、商品情報は未完成の注文情報を含まない。ハードディスク装置241に記憶される未完成の定型の商品注文情報は、商品識別子、商品名等も未記入である点を除いて、商品情報に含まれる未完成の注文情報に類似する。

【0046】上述のように、ハードディスク装置241は、受信した商品情報と、商品情報受信装置で商品を購入した履歴を含む商品購入履歴情報と（図2の商品購入履歴リストがその内容を例示する。）、受信者が商品情報受信装置に入力した商品の自動購入等を起動するための商品識別子又はキーワードと（図4の商品情報検索リストがその内容を例示する。）、受信者が手動で入力して生成した又は自動的に生成した商品の注文書のリストである商品注文リストと（図3の商品注文リストがその内容を例示する。）、類似語辞書とを含んでいる。これらのリストはいずれもデータベース（例えばマイクロソフト社のアクセス（登録商標）等により構築されたデータベース）であって、例えば任意の項目について任意の順番でソーティング等が可能である。又、これらのリストは、相互にデータベースで連結されている。これらの3個のデータベースを統合する1個のデータベースを構築し、1個の統合データベースから上記の3個のデータベースを導出してもよい。

【0047】〔商品購入履歴リストの説明（図2）〕図2の商品購入履歴リストは、当該商品情報受信装置21を所有する受信者（実施例においては山田一郎）がこれまでに購入した商品の履歴である。図2の商品購入履歴リストの各列の記載事項を説明する。201はカテゴリ識別子、202はカテゴリ名、203は商品識別子、204は商品名、205は定期的情報入力を希望するか否かの表示、206は定期的自動購入を希望するか否かの表示、207は定期的自動購入をする商品の購入インターバル（購入時と次の購入時との間の期間）、208は購入日時、209は商品の単価、210は商品の購入数量、211は購入金額（購入金額＝単価×購入数量）、212は購入サイトのURL、213は購入サイトの名称である。図2、図3、図4、図5において、同一の名称の欄は同一の項目である。

【0048】実施例において、カテゴリ識別子201は

商品のカテゴリ毎に決められた固有の10桁の数字であり、カテゴリ名202は商品のカテゴリ名(分類名)である。商品のカテゴリ(分類)には、大分類(例えば家庭用品)、中分類(例えば紙製品)、小分類(例えばティッシュ)があり、図2には小分類を表示している。小分類に代えて大分類又は中分類をリストに表示することも出来るし、大分類、中分類、小分類を全て表示すること等も出来る。実施例においては、小分類としていわゆる商品名を記載しており、「商品名」として商標(例えば「ティッシュP」)を記載している。これに代えて、カテゴリ名に大分類又は中分類を記載し、商品名にいわゆる商品名を記載することも出来る。

【0049】図2の1行目の表示を説明する。カテゴリ識別子が1248965285で、カテゴリ名がティッシュで、商品識別子が5964382615で、商品名がティッシュPである。当該ティッシュPは、受信者は定期的に当該商品の商品情報を入力することを希望しており(205の欄がYESである。)、又受信者は定期的に当該商品の購入を希望している(206の欄がYESである。)。ティッシュPを定期的に自動購入するインターバルは3月である(207の欄)。ティッシュPを購入した日時は、2000年7月15日10時51分23秒であって、当該ティッシュPの単価は400円、購入数量は3個、金額は1200円である。当該ティッシュPを注文したインターネットのURLはhttp://www.paper.co.jpであって、購入サイト名はa製紙会社である。

【0050】受信者(山田一郎)がティッシュPを購入した取引について、a製紙会社の商品情報送出装置11においては受信者履歴リスト(図5)の1行目に表示されており、商品情報受信装置21においては商品購入履歴リスト(図2)の1行目に表示されている。同様に、受信者がペーパータオルGを購入した取引について、a製紙会社の商品情報送出装置11においては受信者履歴リスト(図5)の2行目に表示されており、商品情報受信装置21においては商品購入履歴リスト(図2)の5行目に表示されている。

【0051】[商品情報検索リストの説明(図4)]図4の商品情報検索リストは、当該商品情報受信装置21を所有する受信者(実施例においては山田一郎)が現在商品情報の取得を希望している商品情報のリストである。従って、図4のリストに記載されている商品については、注文情報(注文書)は送付されていない。図4の商品情報検索リストの各列の記載事項を説明する。401はカテゴリ識別子、402はカテゴリ名、403は商品識別子、404は商品名、405はキーワード、406は定期的情報入力希望するか否かの表示、407は定期的自動購入を希望するか否かの表示、408は定期的自動購入をする商品の購入インターバル、809は前回の購入日時、410は商品の購入予定数量、411は

代金の支払い方法、412は要求情報の送付の有無の表示、413は注文サイトのURL、414は注文サイトの名称である。

【0052】商品情報の取得を希望する理由として、幾つかの理由がある。第1は、定期的に商品を自動購入するために商品情報の取得を希望する場合である(例えば2行目のティッシュP)。第2は、1回のみ商品を自動購入するために商品情報の取得を希望する場合である(例えば1行目の傘)。第3は、商品を購入するか否か不明であるが、当該商品情報を定期的に入手し、商品情報を見たい場合である。第4は、商品を購入するか否か不明であるが、1回のみ当該商品情報を入手し、商品情報を見たい場合である(例えば5行目のズボン)。

【0053】図4の1行目の表示を説明する。受信者が傘を購入しようと思っているが、どの傘を購入するかを検討するために時間と労力を費やしたくないと思う場合、実施例の商品情報受信装置21においては、受信者は自動購入機能により傘を購入することが出来る。受信者が指令入力部21に入力することにより、商品情報受信装置21は、カテゴリ名が傘で、キーワードが男性用×黒色×折り畳み傘×3000円以下である1個の商品をe傘株式会社(注文サイトURL欄413)のホームページであるhttp://www.umbrella.co.jp(注文サイト名欄414)から自動購入するように設定されている(図4の1行目)。

【0054】受信者は1回のみ傘を購入する予定であるので定期的な商品情報の入力を希望していない(定期的情報入力欄406がNOの表示である。)。又、受信者は商品(傘)を1回だけ自動購入しようとしており、定期的自動購入欄407にはYESと記載されており、定期的自動購入インターバル欄408には「1回のみ」と記載されている。図4の実施例においては、1回のみの購入も定期的に繰り返す購入も定期的自動購入欄407にYESで表示している。1回のみの購入を、定期的自動購入欄407と異なる別個の欄に表示しても良い。

【0055】実施例においては、通常、10桁の数字である商品識別子により商品を特定する。図4の傘の自動購入においては、受信者は購入したい商品の商品識別子によって特定できない故に、種々の情報により商品を特定している。このような商品識別子以外の商品を特定するための情報が、請求項の記載における第2のキーワード情報に該当する。上記の例においては、カテゴリ名402である「傘」と、キーワード405である「男性用×黒色×折り畳み傘×3000円以下」と、注文サイトURL欄413のhttp://www.umbrella.co.jpと、注文サイト名欄414のe傘株式会社と、によって特定される商品の商品情報を取得すると、自動的に当該商品が注文される。従って、上記の情報が全て請求項の第2のキーワード情報に該当する。

【0056】第2のキーワード情報は、AND論理(論

理積)及びOR論理(論理和)を含むことが出来る。キーワード欄405における「×」はAND論理を意味し、「+」はOR論理を意味する。上記の例においては、受信部262が受信した商品情報に含まれるキーワード情報とハードディスク装置241に記憶された図4の1行目のキーワード情報とが同一又は類似であると判断部231が判断すれば、注文情報自動生成部233が当該商品情報の商品の注文情報自動的に生成し、出力部262が自動的に当該注文情報を出力する。

【0057】即ち、受信部262が受信した商品情報が「傘」、「男性用」、「黒色」、「折り畳み傘」、「3000円以下」、「http://www.umbrella.co.jp」及び「e傘株式会社」のキーワードと同一又は類似のキーワードをAND論理で有していれば(全てを有していれば)、当該商品情報の商品が自動的に注文される。e傘株式会社のURLであるhttp://www.umbrella.co.jpが注文サイトである男性用で黒色で3000円以下の折り畳み傘の商品情報を受信すれば、商品情報受信装置により1個の当該折り畳み傘の注文情報が自動的に生成され、商品情報に含まれるURLに送出される。

【0058】受信した商品情報に含まれるキーワードが、受信者が設定したキーワードと同一ではないが類似している場合も、同様に当該商品情報の商品が自動的に発注される。キーワードが類似していると判断する方法は任意であるが、実施例においては商品情報受信装置21はハードディスク装置241に類似語辞書を有しており、判断部231は、類似語辞書を用いて受信した商品情報に含まれるキーワードと受信者が設定したキーワードとが類似するか否かを判断する。

【0059】例えば、類似語辞書において、見出し語である「折り畳み傘」の類似語として「2つ折り傘」と「3つ折り傘」とが登録されているとする。同様に、見出し語である「傘」の類似語として「雨具」が登録されているとする。もし商品情報に「2つ折り傘」又は「3つ折り傘」のいずれか1つが含まれていれば、判断部231は、受信者が設定したキーワードの「折り畳み傘」と類似のキーワードを当該商品情報が含むと判断する。又、商品情報に「雨具」が含まれていれば、判断部231は、受信者が設定したキーワードの「傘」と類似のキーワードを当該商品情報が含むと判断する。判断部231が他のキーワードも同一又は類似であると判断することを条件として、注文情報自動生成部233は当該商品情報の商品の注文書を自動的に生成する。出力部261は、当該注文情報を自動的に出力する。

【0060】図4の2行目の表示を説明する。受信者が指令入力部21に入力することにより、商品情報受信装置21は、商品識別子5964382615(商品識別子欄403)で商品名ティッシュP(商品名欄404)である3個の商品をa製紙株式会社(注文サイト名欄4

14)のホームページであるhttp://paper.co.jp(注文サイトURL欄413)で3月毎に(定期的自動購入インターバル欄408)定期的に自動購入する(定期的自動情報入力欄406及び定期的自動購入欄407にYESが表示されている。)ように設定されている(図4の2行目)。図4の2行目のティッシュPについては、過去に購入している故に、受信者は購入したい商品であるティッシュPの商品名と商品識別子とを特定できる。

【0061】判断部231は、受信部262が受信した商品情報に含まれる商品識別子が上記の商品情報検索リストに含まれる商品識別子5964382615と同一であると判断したとする。演算部232は、前回購入時(前回購入時間欄409)である2000年7月15日10時51分23秒より現在までの期間(インターバル)を演算する。もし前回購入時より現在までの期間が定期自動購入インターバルである3ヶ月(定期的自動購入インターバル欄409)より長ければ、注文情報自動生成部233は3個のティッシュPの注文書(注文情報)を自動的に生成する。出力部261は、当該注文情報を自動的に出力する。もし前回購入時より現在までの期間が定期自動購入インターバルである3ヶ月(定期的自動購入インターバル欄409)より短ければ、注文情報自動生成部233は3個のティッシュPの注文書(注文情報)を生成せず、出力部261は注文情報を出力しない。

【0062】図4の5行目の「ズボン」のように、受信者が設定したキーワード情報と同一又は類似のキーワード情報を有する商品情報を検索するが、注文情報を自動的に生成しないように設定することも出来る(定期的自動購入欄407にNOと表示している。)。このような設定により、受信者は、商品情報を見てから当該商品情報の商品を買うか買わないかを判断出来る。

【0063】判断部231が、受信部262が受信した商品情報に含まれるキーワード情報と、ハードディスク装置241に格納されている商品情報検索リスト(図4)のキーワード情報とが同一又は類似であると判断すれば、CPU23が「希望する商品情報を入手しました。」というキャラクタ信号を当該商品情報のファイル名のキャラクタ信号とともに画像生成部25に伝送し、画像生成部25が当該キャラクタ信号をビットマップ映像信号に変換して出力する。表示部28がビットマップ映像信号を表示する。これにより、受信者は取得を希望していた商品情報を取得したことを知ることが出来る。又、定期的情報入力欄406にYESを記載し、定期的自動購入欄407にNOを記載することにより、例えば毎月商品情報を入手し、実際に購入するか否かは都度判断することも出来る。

【0064】図4の4行目の表示を説明する。受信者が指令入力部21に入力することにより、商品情報受信装

置21は、カテゴリ名がアンダーシャツで、キーワードが(U首+丸首)×半袖×男子用×Mサイズである1個の商品を自動購入するように設定されている。受信者は1回のみアンダーシャツを購入する予定であるので定期的な商品情報の入力を希望していない(定期的情報入力欄406がNOの表示である。)。又、受信者は商品(アンダーシャツ)を1回だけ自動購入しようとしており、定期的自動購入欄407にはYESと記載されており、定期的自動購入インターバル欄408には「1回のみ」と記載されている。

【0065】図4の4行目のアンダーシャツの自動購入においては、受信者は購入したい商品を商品識別子によって特定できない故に、種々の情報により商品を特定している。上記の例においては、判断部231が、受信部262が受信した商品情報がカテゴリ名402である「アンダーシャツ」とキーワード405である「(U首+丸首)×半袖×男性用×Mサイズ」とを有すると判断すれば、注文情報自動生成部233は自動的に当該商品の注文書(注文情報)を生成し、出力部261は当該注文情報を出力する。従って、「アンダーシャツ」及び「(U首+丸首)×半袖×男性用×Mサイズ」が請求項の第2のキーワード情報に該当する。

【0066】上記の例においては、判断部231が、受信部262が受信した商品情報が「アンダーシャツ」、「U首又は丸首のいずれか(「U首」と「丸首」とはOR論理である。))」、「半袖」、「男性用」及び「Mサイズ」のキーワードと同一又は類似のキーワードを全て(AND論理で)含むと判断すれば、注文情報自動生成部233は当該商品情報の商品の注文書(注文情報)を自動的に生成し、出力部261が当該注文情報を自動的に出力する。従って、U首又は丸首のいずれかで半袖の男性用Mサイズのアンダーシャツの商品情報を受信すれば、当該アンダーシャツ1個の注文情報が自動的に生成され、商品情報に含まれるURLに送出される。

【0067】受信部262が受信した商品情報に含まれるキーワードが、受信者が設定したキーワードと同一ではないが類似している場合も、同様に当該商品情報の商品が自動的に注文される。例えば、類似語辞書において、見出し語である「Mサイズ」の類似語として「身長170cm用」が登録されているとする。もし商品情報にキーワードである「Mサイズ」が含まれていなくても、キーワードである「身長170cm用」が含まれていれば、判断部231は類似語辞書を参照することによって受信者が設定したキーワードの「Mサイズ」と類似のキーワードが当該商品情報に含まれると判断する。判断部231が、商品情報に含まれる他のキーワードも受信者が設定したキーワードと同一又は類似であると判断した場合には、注文情報自動生成部233は当該商品情報の商品の注文書(注文情報)を自動的に生成し、出力部261は当該注文情報を自動的に出力する。

【0068】ティッシュPは、3月の期間(インターバル)を置いて定期的に自動購入される。実施例の商品情報受信装置21においては、ティッシュPの商品情報を入力し、当該ティッシュPの注文情報を生成し、出力し、購入すると(前回の注文は2000年7月15日10時51分23秒)、商品注文リスト(図3)からティッシュPの行が削除され、当該ティッシュPの購入履歴が商品購入履歴リスト(図2)に記載されると同時に、図4に示す商品情報検索リストに当該ティッシュPの行が掲載される。しかし、前回購入時から3月経過するまでは次の注文情報は生成されない。

【0069】実施例においては、前回購入時から3月経過以降に図4の2行目に記載した条件に適合するティッシュPの商品情報を受信した時に、当該商品情報の商品(ティッシュP)の注文情報が生成され、出力される。注文情報が出力されて且つ商品を入力していなければ、当該注文情報は図3の商品注文リストに掲載されて管理される。当該注文情報が図3の商品注文リストに掲載されると同時に、図4の商品情報検索リストからティッシュPの行は削除される。1回だけの注文であれば、注文情報に係る商品を受け取れば、当該商品購入の1件が図2の商品購入履歴リストに記載され、それと同時に、当該注文情報が図3の商品注文リストから削除される。しかし、一定のインターバルにおいて定期的に自動購入をする注文であれば、注文情報に係る商品を受け取れば、当該商品購入の1件が商品購入履歴リスト(図2)と商品情報検索リスト(図4)とに記載され、当該注文情報が図3の商品注文リストから削除される。

【0070】商品を受け取ったことは、受信者が手作業で入力しても良いが、不正確である。実施例においては商品情報送出装置11の管理部12がMODEM14、26を介して商品情報受信装置21のCPU23に商品の配達を完了したことを通知する。管理部12が商品の発送を指示すると、商品の集配センタ(図示していない。)で配送車に当該商品を搭載して配達するが、配送係の者は当該商品を配達する際に商品をバーコードでチェックする。バーコードリーダーは管理部12とネットワークで接続される。これにより、管理部12は、確かに商品が配達されたことを知ることが出来る。そこで、その日の夜中の12以降に、管理部12がMODEM14、26を介して商品情報受信装置21のCPU23に商品の配達を完了したことを通知する。これにより、商品情報受信装置21は、正確な商品購入履歴リスト(図2)を有することが出来る。図4において、ティッシュPを前回購入してから現在までに3月を経っていない故に、要求情報欄412はNOを表示している。

【0071】3行目のシャンプーW(商品識別子1428563977)については、前回購入時である2000年5月10日13時19分40秒から現在までに定期的自動購入インターバルの2月(定期的自動購入インタ

21

一バル欄408)を超える期間が経過している。前回購入時から2月経過後、商品識別子1428563977で商品名がシャンプーWである商品情報が来るまで待つことも出来るが、実施例においては、要求情報生成部234が、商品情報の送付を要求する要求情報を生成する。出力部261が前記要求情報を注文サイトのURL(<http://www.shampoo.co.jp>)に向けて出力する。これにより受信者が設定したインターバル(2月)よりも大幅に遅れてシャンプーWを入手すること防止する。

【0072】実施例においては、要求情報はHTMLで記述された商品情報の要求書である。ハードディスク装置241には定型的な未完成の要求情報が記憶されており、個別の商品情報ごとにそれぞれの商品識別子、商品名、受信者識別子、受信者名、受信者のアドレス、及び要求書の送付先(注文サイトURL欄413)を書き込むことにより要求情報を完成させることが出来る(1台の商品情報受信装置については、受信者識別子、受信者名、受信者のアドレスは一般に固定である。)。要求情報生成部234は、図4の商品情報検索リストから商品識別子、商品名、及び要求書の送付先を読み込んで、要求情報に書き込む。

【0073】要求情報生成部234は、ハードディスク装置241に記憶されるインターネットの管理ソフト(例えばマイクロソフト社のInternet Explorer(登録商標))が管理するファイルから受信者のアドレス(Eメールアドレス)を読み込んで、要求情報に書き込む。要求情報生成部234は、受信者識別子カード入力部242を通じて、そこに挿入された受信者識別子カードから受信者識別子及び受信者名を読み込んで、要求情報に書き込む。以上のように、このような定型的な未完成の要求情報を有することにより、要求情報生成部234は容易に個々の要求情報を生成することが出来る。下記に要求情報の概略的な例を示す。

【0074】<HTML>

<HEAD>

<TITLE>商品情報の要求書</TITLE>

</HEAD>

<BODY>

<H1>商品情報の要求書</H1><HR>

<P>

<TABLE>

<TR>

<TD>要求者の受信者コード</TD><NAME="9485160173(受信者識別子)"></TR>

<TR>

<TD>要求者のお名前</TD><NAME="山田一郎(受信者名)"></TR>

<TR>

22

<TD>要求者のEメールアドレス</TD><NAME="アドレス表示(受信者のアドレス)"></TR>

<TR>

<TD>商品情報を希望される商品の商品識別子</TD><NAME="1428563977(商品識別子)"></TR>

<TR>

<TD>商品情報を希望される商品の商品名</TD><NAME="シャンプーW(商品名)"></TR></TABLE>

<TR>

<TD>要求書の送付先のアドレス</TD><NAME="http://www.shampoo.co.jp(注文サイトのURL)"></TR>

</BODY>

</HTML>

【0075】注文サイトである商品情報送出装置11は、管理部12の指令に従って又は商品情報受信装置21から送付された要求情報に従って、商品情報を商品情報受信装置21に送付する。商品情報受信装置21においては、受信者が受信した商品情報を見て指令入力部22を通じて手操作で注文情報を生成し、受信者が指令入力部22を通じて入力する指令に従って出力部261が当該注文情報を出力する。又は、判断部231が受信した商品情報に含まれる商品識別子とハードディスク装置241に記憶する商品識別子とが同一である判断し若しくは受信した商品情報に含まれるキーワード情報とハードディスク装置241に記憶するキーワード情報とが同一又は類似である判断し、注文情報自動生成部233が注文情報を自動的に生成し、出力部261が当該注文情報を出力する。

【0076】実施例においては、注文情報はHTMLで記述された注文書である。上述のように商品情報には定型的な未完成の注文情報が添付されており、未完成の注文情報は、商品の注文書であることの記述、商品識別子、商品名、単価、金額の計算式(金額=単価×注文数量の式により算出される。)、注文書の送付アドレス(注文サイトURL欄313)、注文書の送付アドレス名(注文サイト名欄314)等が既に記入されている。従って、商品情報受信装置21においては、個別の商品情報ごとにそれぞれの受信者識別子、受信者名、受信者のアドレス、及び注文個数、代金の支払方法等を書き込むことにより注文情報を完成させることが出来る。

【0077】1台の商品情報受信装置については、受信者識別子、受信者名、受信者のアドレスは一般に固定である故、一般には注文個数等を除くと同一の内容を記載するだけで(受信者識別子等)注文情報を完成することが出来る。注文情報自動生成部233は、ハードディスク装置241に記憶されるインターネットの管理ソフ

ト(例えばマイクロソフト社のInternet Explorer(登録商標))が管理するファイルから受信者のアドレスを読み込んで、注文情報に当該受信者のアドレスを書き込む。

【0078】注文情報自動性生成部233は、受信者識別子カード入力部242を通じてそこに挿入された受信者識別子カードから受信者識別子及び受信者名を読み込んで、注文情報に当該受信者識別子及び受信者名を書き込む。注文情報自動性生成部233は、図4の商品情報検索リストの購入数量欄410の数量と代金の支払い方法欄411の支払い方法を読み込んで(ハードディスク装置241に記憶されている。)、注文書の注文数量欄及び支払い方法欄に書き込む。

【0079】定期的に自動購入するように設定された商品については、受信者が注文数量を変更しない限り、前回の購入数量と同一の数量が注文数量に記載される。好ましくは、受信者が当該商品を定期的に自動購入するように設定しているのか否かと、当該商品を定期的に自動購入するように設定していれば定期的自動購入インターバルの期間と、を当該注文情報に記載する。これらの情報は当該注文情報そのものには役立たないが、後述のように(図9)次回以降の注文時に便利である。下記に図3の商品注文リストの2行目に記載するペーパータオルGの注文情報の内容を概略的に示す。

【0080】<HTML>

<HEAD>

<TITLE>商品の注文書</TITLE>

</HEAD>

<SCRIPT LANGUAGE=VBScript>

MsgBox "注文されますか", VbYesNo</SCRIPT>

<BODY>

<H1>商品の注文書</H1><HR>

<TABLE>

<TR>

<TD>注文者のお名前</TD><INPUT TYPE=TEXT SIZE=30 MAXSIZE=30 NAME="山田一郎"></TR>

その他の入力項目の入力(受信者識別子、注文者のEメールのアドレス、商品の注文数量(2個)等)が記載されている。select形式により選択された代金の支払方法等が記載されている。

</TABLE>

<P>

<TABLE>

<TR>

<TD>商品識別子</TD>

<TD>8423594068</TD>

</TR>

<TR>

<TD>商品名</TD>

<TD>ペーパータオルG</TD>

</TR>

商品の主要な仕様、単価、その他を同様にテーブル形式で表示している。

</TABLE>

金額(=単価×注文数量)を自動的に演算して表示している。

10 a製紙株式会社

</BODY>

</HTML>

【0081】注文情報自動生成部233は、注文情報を自動的に生成し、完成した注文情報を出力部261にバスライン27を通じて送付する。出力部261は、注文情報を通信回線31を通じてMODEM14に送付し、MODEM14は受信した注文情報を管理部12に伝送する。

20 【0082】[商品情報送出装置11の説明の続き(図1)]管理部12は、格納部13の商品管理データ131を検索して注文の商品(上記の例ではペーパータオルG)を販売することが可能であるか否かをチェックし、可能であればMODEM14を通じて商品情報受信装置21に注文情報を受け取ったという情報を送付する。又、管理部12は、商品管理データ131に注文情報を受け取った日から例えば2日後に商品を配達する予定を書き込む。又、管理部12は、受信者履歴情報133に当該注文情報があつたことを記載する。

30 【0083】2日後に、管理部12は商品管理データ131から当該商品を配達する日であることを読み出し、商品発送を指示する。商品情報送出装置11は商品の配達システムの一部を構成しており、管理部12の指示に従って当該商品(上記の例ではペーパータオルG)が配達される。商品の集配センタ(図示していない。)で配達係の者は当該商品を配達する際に商品をバーコードでチェックする。バーコードリーダーは管理部12とネットワークで接続される。これにより、管理部12は、確かに商品が配達されたことを知ることが出来る。商品が配達されると、その日の夜中の24時以降に、管理部12は商品管理データ131と受信者履歴情報133とに商品を配達したことを記載する。又、管理部12は、MODEM14、26を通じてCPU23に商品を配達したという情報を送付する。

【0084】なお、翌月の15日に受信者の銀行口座から当該商品の代金が引き落とされる。例えば受信者が翌月1回払いの支払い方法を選択していれば、当該商品の取引は全て完結する。

50 【0085】[商品情報受信装置21の説明の続き(図1)]CPU23は、商品が配達されたという情報を受

け取ると、商品注文リスト（図3）から当該商品の行を削除し、当該商品を購入したことを商品購入履歴情報（図2）に記載する。もし当該商品が定期的に自動購入するように設定している商品であれば、更に当該商品の購入を商品情報検索リスト（図4）に書き込む。もっとも、商品を購入した日から定期的自動購入インターバル欄207（図2）に記載した日数以上の日数を経過するまでは、注文情報は生成されない。注文情報を出力後で商品を配達したという情報を受け取るまでは、当該注文情報に関するデータが商品注文リスト（図3）に書き込まれている。

【0086】〔商品注文リストの説明（図3）〕図3の商品注文リストは、当該商品情報受信装置21を所有する受信者（実施例においては山田一郎）が現在注文中の商品のリストである（まだ商品を受け取っていない）。図3の商品注文リストの各列の記載事項を説明する。301はカテゴリ識別子、302はカテゴリ名、303は商品識別子、304は商品名、305は定期的情報入力希望するか否かの表示、306は定期的自動購入希望するか否かの表示、307は定期的自動購入をする商品の購入インターバル、308は注文日時、309は商品の単価、310は商品の注文数量、311は注文金額（注文金額＝単価×注文数量）、312は代金の支払い方法、313は注文サイトのURL、314は注文サイトの名称である。

【0087】図3の1行目の表示を説明する。カテゴリ識別子が9926100511で、カテゴリ名がCDプレーヤで、商品識別子が1014284320で、商品名がCDプレーヤFを注文している。当該CDプレーヤFは、受信者は定期的に当該商品の商品情報を入力することを希望しておらず（定期的情報入力欄305がNOである。）、又受信者は定期的に当該商品の購入を希望しない（定期的自動購入欄306がNOである。）。従ってCDプレーヤFを定期的に自動購入するインターバルは記載されていない。CDプレーヤFを注文した日時は、2000年7月26日17時41分23秒であって、当該CDプレーヤFの単価は15000円、注文数量は1個、金額は15000円である。当該CDプレーヤFを注文したインターネットのURLはhttp://www.electronic.co.jpであって、購入サイト名はh

電気株式会社である。

【0088】受信者（山田一郎）がペーパータオルGを2個購入した取引について、商品情報送出装置11においては受信者履歴リスト（図5）の2行目に表示されており、商品情報受信装置21においては商品購入履歴リスト（図2）の5行目に表示されている。従来の商品情報受信装置においては、注文した商品が届けられると取引が終了して当該商品が注文リストから削除され、当該商品についてその後いかなる処理も発生しないが（受信者が新たに当該商品の購入の指令を入力した場合等を除

く。）、実施例の商品情報受信装置においては、定期的に商品の自動購入を希望する商品については商品が届けられて当該商品が注文リストから削除された後も、当該商品に関する情報が商品情報検索リスト（図4）に維持される。

【0089】図2において受信者はペーパータオルGを自動注文して2000年6月30日14時28分39秒に入手しているが、ペーパータオルGは商品注文リスト（図3）の2行目に再び記載されている。受信者はペーパータオルGを20日毎に購入することを希望している（図2の定期的自動購入欄206がYESで、定期的自動購入インターバル欄207が20日になっている。）故に、2000年6月30日にペーパータオルGを購入した後、直ちに商品情報検索リスト（図4）にペーパータオルGが記載された。それから20日を経過して、注文情報自動生成部233は、再び前回の注文と同一の数（2個）の同一の商品（ペーパータオルG）の注文情報を自動的に生成し、出力部261は当該注文情報を出力したのである。注文情報を出力した際に、商品情報検索リスト（図4）からペーパータオルGが削除され、商品注文リスト（図3）の2行目にペーパータオルGが記載された。

【0090】受信者（山田一郎）がティッシュPを購入した取引について、商品情報送出装置11においては受信者履歴リスト（図5）の1行目に表示されており、商品情報受信装置21においては商品購入履歴リスト（図2）の1行目に表示されている。

【0091】従来の商品情報受信装置においては、注文した商品が届けられると取引が終了して当該商品が注文リストから削除されるが、実施例の商品情報受信装置においては、定期的に商品の自動購入を希望する商品については商品が届けられて当該商品が注文リストから削除された後も、当該商品に関する情報が商品情報検索リスト（図4）に維持される。例えば、図2において受信者はティッシュPを自動注文して2000年7月15日10時51分23秒に入手しているが、ティッシュPは商品情報検索リスト（図4）の2行目に記載されている。

【0092】受信者（山田一郎）はティッシュPを3ヶ月毎に購入することを希望している（定期的自動購入欄206がYESになっている。）故に、2000年7月15日にティッシュPを購入した後も、次に2000年10月15日にティッシュPを購入する予定である。従って、商品情報受信装置21の商品購入予定のリストから当該ティッシュは削除されない。しかし、2000年7月15日にティッシュPを購入した後3ヶ月間は新たにティッシュを購入する必要がない故に、商品注文リスト（図3）には記載されておらず、商品情報検索リスト（図4）の2行目に記載されている。

【0093】実施例においては、前回の購入日時から現在までの期間が定期的自動購入インターバル欄408に

記載した期間より長くなった時点で、要求情報生成部234が商品情報の要求情報を生成する。他の実施例においては、受信した商品情報を全て記憶部24のハードディスク装置241に記憶しておき、前回の購入日時から現在までの期間が定期的自動購入インターバル欄408に記載した期間より長くなった時点で、ハードディスク装置241から設定したキーワード情報と同一又は類似のキーワード情報を有する商品情報を検索して読み出し、注文情報自動生成部233が自動的に注文情報を生成し、出力部261が自動的に当該注文情報を出力する。常時販売されている商品を注文する場合には他の実施例の商品情報受信装置は有用であるが、販売する時期と販売しない時期とがある場合には、実施例の方法が優れている。

【0094】実施例においては、前回の購入日時から現在までの期間が定期的自動購入インターバル欄408に記載した期間より長いかなかを判断するが、他の実施例においては、前回の注文日時から現在までの期間が定期的自動購入インターバル欄408に記載した期間より長いかなかを判断する。どちらでも良い。

【0095】〔商品の自動購入の説明(図6)〕図6は、実施例の商品情報受信方法における注文情報の自動生成方法のフローチャートを示す。最初に受信部262が商品情報を受信する(ステップ601)。次に判断部231が、商品情報に含まれる商品識別子である第1の商品識別子と、商品情報受信装置が有する商品識別子である第2の商品識別子(受信者が自動的に注文情報を生成することを希望する商品の商品識別子)とが同一であるかなかをチェックする。もし第1の商品識別子と第2の商品識別子とが同一であればステップ604に進む。もし第1の商品識別子と第2の商品識別子とが同一でなければステップ603に進む。

【0096】ステップ603において、判断部231が、商品情報に含まれるキーワード情報である第1のキーワード情報と、商品情報受信装置が有するキーワード情報である第2のキーワード情報(受信者が自動的に注文情報を生成する商品情報を選別する条件)とが同一又は類似であるかなかをチェックする。もし第1のキーワード情報と第2のキーワード情報とが同一又は類似であればステップ604に進む。もし第1のキーワード情報と第2のキーワード情報とが同一でなければ、処理を終了する(何もしない。)。ステップ604において(受信した商品情報は、受信者が自動的に注文情報を生成することを希望する商品情報である。)、注文情報自動生成部233が、受信した商品情報の商品の注文情報を自動的に生成する。次に、出力部261が、生成した商品の注文情報を自動的に出力する(ステップ605)。以上で処理を完了する。

【0097】〔他の商品の自動購入の説明(図7)〕図7は、実施例の商品情報受信方法における他の注文情報

の自動生成方法のフローチャートを示す(定期的に自動購入を行う商品の注文情報の生成方法である。)。最初に受信部262が商品情報を受信する(ステップ701)。次に判別部231が、商品情報に含まれる商品識別子である第1の商品識別子と、商品情報受信装置が有する商品識別子である第2の商品識別子(受信者が自動的に注文情報を生成することを希望する商品の商品識別子)とが同一であるかなかをチェックする。もし第1の商品識別子と第2の商品識別子とが同一であればステップ704に進む。もし第1の商品識別子と第2の商品識別子とが同一でなければステップ703に進む。

【0098】ステップ703において、判別部231が、商品情報に含まれるキーワード情報である第1のキーワード情報と、商品情報受信装置が有するキーワード情報である第2のキーワード情報(受信者が自動的に注文情報を生成する商品情報を選別する条件)とが同一又は類似であるかなかをチェックする。もし第1のキーワード情報と第2のキーワード情報とが同一又は類似であればステップ704に進む。もし第1のキーワード情報と第2のキーワード情報とが同一でなければ、処理を終了する(何もしない。)。)

【0099】ステップ704において演算部232が、現在の日時から前回の購入日時を差し引いた値を演算する。注文情報自動生成部233は、当該値が、定期的に自動購入をするインターバルと同一か若しくはより長いかな、又は否かをチェックする。もし現在の日時から前回の購入日時を差し引いた値が、定期的に自動購入をするインターバルと同一又はより長ければ、ステップ705に進む。もし現在の日時から前回の購入日時を差し引いた値が、定期的に自動購入をするインターバルより短ければ(同一でもなく、より長くもない。)、処理を終了する(何もしない。)。ステップ705において(受信した商品情報は、受信者が自動的に注文情報を生成することを希望する商品情報であって且つ前回の購入日時から現在までに設定したインターバルより長い期間が経過している。)、注文情報自動生成部233が、受信した商品情報の商品の注文情報を自動的に生成する。次に、出力部261が、生成した商品の注文情報を自動的に出力する(ステップ705)。以上で処理を完了する。

【0100】上記の図7のフローチャートは、特に定期的に一定のインターバルで注文情報を自動的に生成し、出力する処理において実行される。図7に示すように、定期的に一定のインターバルで注文情報を自動的に生成し、出力する処理は、購入を希望する商品の商品識別子と同一の商品識別子を含む商品情報を受信した際に起動されるが、購入を希望する商品のキーワード情報と同一又は類似のキーワード情報を含む商品情報を受信した際にも起動される。

【0101】〔商品情報の要求情報の自動送出手の説明(図8)〕図8は、実施例の商品情報受信方法における

10

20

30

40

50

商品情報の送付を要求する要求情報の自動生成方法のフローチャートを示す(定期的に自動購入を行う商品に関する商品情報の要求情報の自動生成方法である。)。最初に定期的に自動購入をしている商品を抽出する(ステップ801)。次に演算部232が、現在の日時から前回の購入日時を差し引いた値を演算する。要求情報生成部234が、当該値が定期的に自動購入をするインターバルと同一か若しくはより長い、又は否かをチェックする(ステップ802)。もし現在の日時から前回の購入日時を差し引いた値が、定期的に自動購入をするインターバルと同一若しくはより長ければ、ステップ803に進む。もし現在の日時から前回の購入日時を差し引いた値が、定期的に自動購入をするインターバルより短ければ(同一でもなく、より長くもない。)、処理を終了する(何もしない。)

【0102】ステップ803において(前回の購入日時から現在までに設定したインターバルより長い期間が経過している。)、要求情報生成部234は、注文しようとしている商品についての商品情報の要求情報を自動的に生成する。次に、出力部261が、生成した要求情報を自動的に出力する(ステップ804)。以上で処理を完了する。

【0103】[商品情報送出装置における商品情報の自動送出の説明(図9)]図9は、実施例の商品情報送出方法のフローチャートを示す(商品情報受信装置において定期的に自動購入を行うように設定した商品に関する商品情報の自動送出方法である。)。最初に管理部12が、商品管理データより、受信者毎の定期的に自動購入をしている商品を抽出する(ステップ901)。ここで、管理部12は、各商品情報受信装置から受信者毎の定期的に自動購入をしている商品及び定期的自動購入インターバルの情報等を入手していることが必要である。

【0104】次に、管理部12が、自動購入をするように設定した各商品情報受信装置毎に、現在の日時から前回の購入日時を差し引いた値を演算する。管理部12は、当該値が、定期的に自動購入をするインターバルと同一か若しくはより長い、又は否かをチェックする(ステップ902)。もし現在の日時から前回の購入日時を差し引いた値が、定期的に自動購入をするインターバルと同一若しくはより長ければ、ステップ903に進む。もし現在の日時から前回の購入日時を差し引いた値が、定期的に自動購入をするインターバルより短ければ(同一でもなく、より長くもない。)、処理を終了する(何もしない。)

【0105】ステップ903において(前回の購入日時から現在までに設定したインターバルより長い期間が経過している。)、管理部12は、当該商品情報受信装置に、自動注文しようとしている当該商品の商品情報を自動的に生成する。次に、管理部12は、MODEM14を通じて生成した商品情報を出力し、当該商品情報受

信装置の受信部262に自動的に送付する(ステップ904)。以上で処理を完了する。

【0106】商品情報受信装置において自動注文をしようとしている商品の商品情報の検索方法は、商品情報受信装置から入手した情報に基づいて、管理部12が、自動注文をしようとしている商品の商品識別子と同一の商品識別子を有する商品情報を検索し、又は自動注文をしようとしている商品に関するキーワード情報と同一又は類似のキーワード情報を有する商品情報を検索することにより、実行する。好ましくは、商品情報に添付する未完成の注文情報に、送付先の商品情報受信装置が前回自動注文した当該商品の注文数量と同一の数量を記載する。図9の実施例においては、管理部12が、自動購入をするように設定した各商品情報受信装置毎に、現在の日時から前回の購入日時を差し引いた値を演算するが、他の実施例においては、これに代えて現在の日時から前回の注文日時を差し引いた値を演算する。どちらでもよい。

【0107】本実施例は、通信回線を通じて受信者に商品情報を送付し、受信者から例えば同じ通信回線を通じて商品の注文情報を取得する。これに代えて、商品情報を地上波放送又は衛星放送により受信者に送付しても良い。この場合は、好ましくは商品情報に、当該商品情報を送付しようとしている個々の受信者の受信者識別子を付加情報として添付する。各商品情報受信装置は、受信者識別子カードを挿入した受信者識別子カード入力部242から読み取った受信者識別子と同一の受信者識別子が付加情報として添付された商品情報を選択して受信し、内部の記録装置(例えばハードディスク装置)に記録する。それ以外の点においては、本実施例と同一の構成を有する商品情報送出装置、商品情報受信装置等によっても、上記の実施例と同一の作用及び効果を奏することが出来る。この場合は、典型的には商品情報送出装置及び商品情報受信装置の出力部と受信部とが同一のMODEM内に存在せず、それぞれ別個のユニットになる。

【0108】又、更に他の実施例においては、商品情報受信装置の出力部はプリンタであり、注文情報を印刷により出力する。受信者が当該印刷された注文情報を郵送することにより、受信者が希望する商品を取得することが出来る。他の点については、上記の実施例と同一である。

【0109】上記の本発明の商品情報送出方法又は商品情報受信方法のソフトウェアプログラムを記録した記録媒体を、商品情報送出装置又は商品情報受信装置(若しくは適切な周辺ユニットを具備したコンピュータ)等に装着し、記録されているソフトウェアプログラムを当該商品情報送出装置又は商品情報受信装置(若しくは適切な周辺ユニットを具備したコンピュータ)等にロードすることにより、本発明の商品情報送出方法又は商品情報受信方法を実施することが出来る。

【0110】

【発明の効果】本発明によれば、送付される商品情報の中から自動的に受信者（商品情報受信装置を操作する人）が希望する商品情報を選択し、自動的に注文情報を生成し、生成した注文情報を送付する商品情報受信装置を実現出来るという有利な効果が得られる。受信者は、ブラウザ検索等により手作業で希望する商品情報を取得することなく、又手作業で注文書を作成して送付することなく、希望する商品を手入することが出来る。

【0111】本発明によれば、受信者の手間を煩わせることなく自動的に且つ定期的に商品を注文する商品情報受信装置を実現出来るという有利な効果が得られる。これにより、受信者はつまらない日常の消耗品を定期的に購入する労力から開放される。又、商品の販売者は、定期的に且つ確実に顧客からの注文を得ることが出来る。

【0112】請求項3の本発明によれば、各商品毎に最適の定期的自動購入インターバルを設定可能な商品情報受信装置を実現出来るという有利な効果が得られる。

【0113】本発明によれば、前回の注文数量と同一の数の商品を注文することにより最適の数の商品を注文する商品情報受信装置を実現出来るという有利な効果が得られる。

【0114】本発明によれば、例えば定期的に商品を購入する場合、一定のインターバル以上の日数を経過すると自動的に商品情報受信装置が商品情報の要求情報を生成して前回の注文先に送付する。これにより自動的に商品情報を取得することが出来る。本発明によれば、より正確に一定のインターバル毎に商品を自動的に注文し且つ購入する商品情報受信装置を実現出来るという有利な効果が得られる。

【0115】本発明は、商品情報の提供により注文を獲得する確率が高い商品情報送出装置を実現出来るという有利な効果が得られる。又、請求項8の発明によれば、商品情報に注文者の注文数量を添付することにより、注文者の次回の注文書の生成を容易にする商品情報送出装置を実現出来るという有利な効果が得られる。

【図面の簡単な説明】

【図1】実施例の商品情報送出装置と商品情報受信装置のブロック図

【図2】実施例の商品情報受信装置の商品購入履歴リストを示す図

【図3】実施例の商品情報受信装置の商品注文リストを示す図

【図4】実施例の商品情報受信装置の商品情報検索リストを示す図

【図5】実施例の商品情報送出装置の受信者履歴情報のリストを示す図

【図6】実施例の商品情報受信方法のフローチャート

【図7】他の実施例の商品情報受信方法のフローチャート

【図8】実施例の商品情報の要求情報の送出フローチャート

【図9】実施例の商品情報送出方法のフローチャート

【符号の説明】

11 商品情報送出装置

12 管理部

13 格納部

131 商品管理データ

132 キーワードリスト

133 受信者履歴情報

134 商品情報

14 MODEM

21 商品情報受信部

22 指令入力部

23 CPU

231 判断部

232 演算部

233 注文情報自動生成部

234 要求情報生成部

24 記憶部

241 ハードディスク装置

242 受信者識別子カード入力部

25 画像生成部

26 MODEM

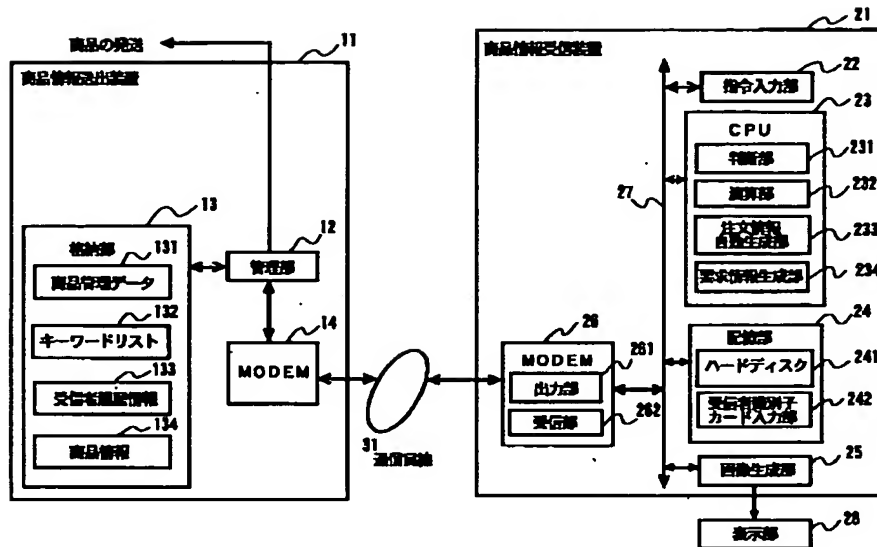
261 出力部

262 受信部

28 表示部

31 通信回線

【図1】



【図2】

商品購入履歴リスト (商品情報受信装置)

201	202	203	204	205	206	207	208	209	210	211	212	213
カテゴリ 番号	カテゴリ 名	商品 番号	商品名	定量的 購入 入力	定量的 自動 購入	定量的 自動購入 タイマー	購入 日時	単価	購入 数量	金額	購入サイト URL	購入サイト 名
1248365285	ティッシュ	5364382615	ティッシュP	YES	YES	3月	2000年 7月16日 10:51:23	400	3	1,200	http://www. paper.co.jp	a 紙類 株式会社
7318254283	洗剤 洗剤	2359478227	洗剤 Q	YES	YES	2月	2000年 7月10日 13:01:19	450	2	900	http://www. detergent.co.jp	b 洗剤 株式会社
6100948253	ボロ シャツ	6831485258	半袖 ボロシャツ 男性用M 色:青	YES	NO	—	2000年 7月12日 19:23:40	4,000	1	4,000	http://www. cloth.co.jp	c 衣料 株式会社
4831670272	麺類 チューブ	4831670274	麺類 チューブ S	—	—	—	2000年 7月1日 09:19:51	500	1	500	http://www. pasta.co.jp	d 麺類 株式会社
1248365213	ペーパー タオル	8423534068	ペーパー タオルG	YES	YES	20日	2000年 6月30日 14:28:39	600	2	1,200	http://www. paper.co.jp	a 紙類 株式会社

【図3】

商品注文リスト (商品情報受信後)

301	302	303	304	305	306	307	308	309	310	311	312	313	314
カテゴリ 番号	カテゴリ 名	商品 番号	商品名	定期的 購入 入力	定期的 自 購入	定期的 自 購入 イテム	注文 日時	単価	注文 数量	金額	支払い 方法	注文サイト URL	注文サイト 名
9926100511	CD プレイ	1014284320	CD プレイ F	NO	NO	-	2000年 7月26日 17:41:23	5,000	1	5,000	3回 均等 払い	http://www. electric.co.jp	h電気 株式会社
1248565213	ペーパー タオル	8423534068	ペーパー タオル G	YES	YES	20日	2000年 7月15日 10:51:23	600	2	1,200	翌月 1回 払い	http://www. paper.co.jp	a製紙 株式会社
4325812841	子供用 Tシャツ	7040280814	5歳用 子供 Tシャツ H	NO	NO	-	2000年 7月26日 01:59:20	1,500	1	1,500	翌月 1回 払い	http://www. cloth.co.jp	c衣料 株式会社
2204158833	スリッパ	6418325839	スリッパ I	NO	NO	-	2000年 7月15日 15:18:40	2,300	1	2,300	翌月 1回 払い	http://www. shoes.co.jp	j服飾 株式会社

【図4】

商品情報受信後リスト (商品情報受信後)

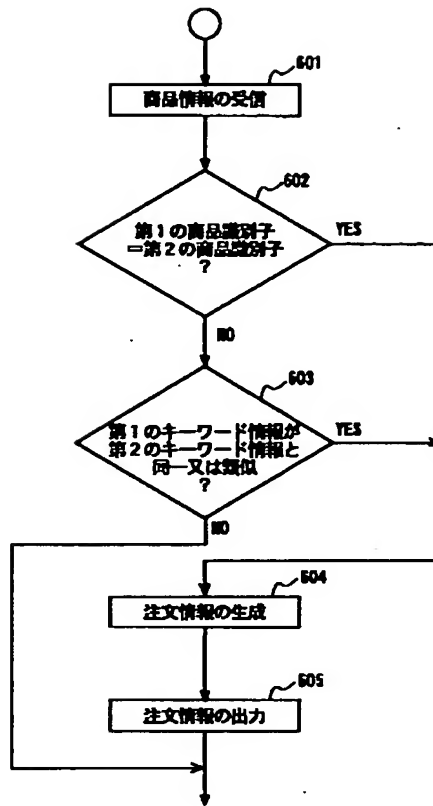
401	402	403	404	405	406	407	408	409	410	411	412	413	414
カ タ ゴ リ 番 号	カ タ ゴ リ 名	商 品 番 号	商 品 名	キ ー ワ ー ド	定期的 購入 入力	定期的 自 購入	定期的 自 購入 イテム	前 回 購入 日時	購入 数量	支払 方法	支払 情報の 送付	注文サイト URL	注文サイト 名
-	傘	-	-	男性用 ×黄色 ×折り畳み傘 ×3000円以下	NO	YES	1回 のみ	-	1	翌月 1回 払い	-	http://www. umbrella.co.jp	e傘 株式会社
-	-	5964382615	77201 P	-	YES	YES	3月	2000年 7月15日 10:51:23	3	翌月 1回 払い	NO	http://www. paper.co.jp	a製紙 株式会社
-	-	1428563977	77201 W	-	YES	YES	2月	2000年 5月10日 13:19:40	1	翌月 1回 払い	YES	http://www. shampoo.co.jp	hシャンプー 株式会社
-	77201 W	-	-	(0歳+丸首) ×手拭 ×男性用 ×黄色	NO	YES	1回 のみ	-	1	翌月 1回 払い	-	-	-
-	77201 W	-	-	5歳用 子供用 ×黄色	NO	NO	-	-	-	-	-	-	-

【図5】

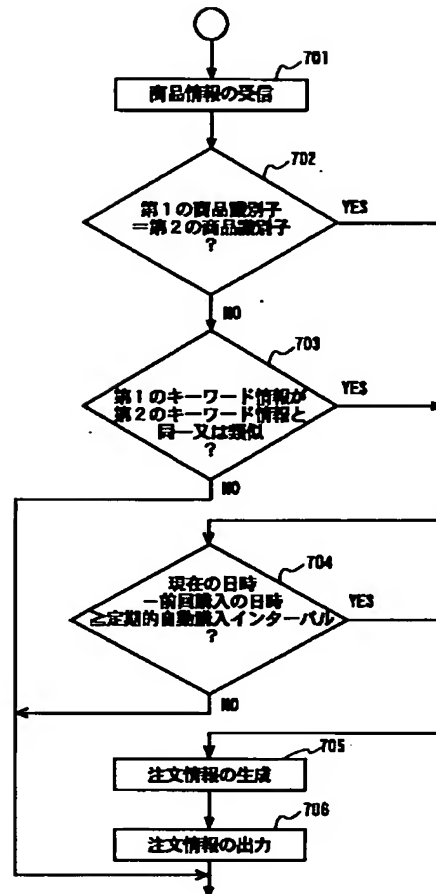
受発者情報リスト (商品情報受信後)

501	502	503	504	505	506	507	508	509	510	511	512	513
受 発 者 番 号	受 発 者 名	商 品 番 号	商 品 名	注文 受付 日	商品 発送 日	代金 決済 日	定期的 購入 入力	定期的 自 購入	定期的 自 購入 イテム	単価	数量	金額
9485160173	山田一郎	5964382615	ティンシュ P	2000年 7月15日 14:39:23	2000年 7月15日 09:03:15	未	YES	YES	3月	408	3	1,200
9485160173	山田一郎	8423534068	ペーパー タオルG	2000年 7月23日 10:10:19	未	未	YES	YES	20日	600	2	1,200
2786495322	吉田隆	3859642109	トイレ ペーパー M	2000年 6月20日 10:46:18	2000年 6月22日 14:18:09	2000年 7月15日 10:33:48	YES	NO	-	508	2	1,000
6738254108	川上正則	7325814088	ポケット ティンシュ N	2000年 6月15日 18:23:01	2000年 6月17日 10:53:29	2000年 7月15日 10:53:12	NO	NO	-	300	1	300

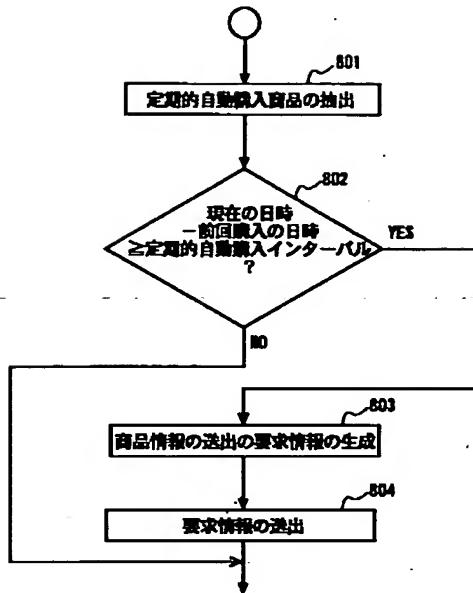
【図6】



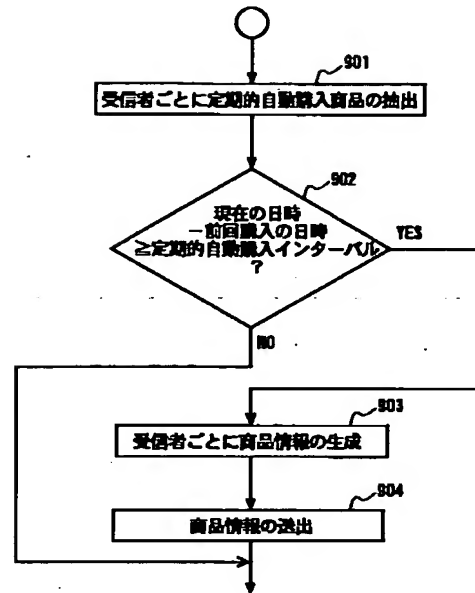
【図7】



【図8】



【図9】



フロントページの続き

(51)Int.Cl.⁷

G 0 6 F 17/30

識別記号

3 4 0

3 5 0

F I

G 0 6 F 17/30

テーマコード(参考)

3 4 0 A

3 5 0 C

Fターム(参考) 5B049 AA06 BB11 BB49 CC02 CC05
 CC08 CC22 DD04 DD05 EE01
 EE05 EE23 FF03 FF04 FF09
 GG04 GG07
 5B075 KK07 KK20 KK33 ND03 ND20
 ND23 ND36 NK02 NK13 NK24
 PP10 PP12 PP22 PP30 PQ02
 PQ05 PR03 PR06 QM08 UU38
 UU40

**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning
Operations and is not part of the Official Record**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- ☐ **BLACK BORDERS**
- ☐ **IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES**
- ☐ **FADED TEXT OR DRAWING**
- ☐ **BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING**
- ☐ **SKEWED/SLANTED IMAGES**
- ☐ **COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS**
- ☐ **GRAY SCALE DOCUMENTS**
- ☐ **LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT**
- ☐ **REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY**
- ☐ **OTHER:** _____

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.